

## 委員等意見への対応について（行動計画改定関係）

平成 29 年度第3回協議会(平成 29 年 11 月 22 日)での主な意見

主な意見	対応
<p><b>「5つの力」の関連図</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 直線的ではっきりしたものではない、花形などがよい。</li> <li>➤ 家庭や学校といった主体ごとに、主にどのような力を育むかということが分かるものがよい。</li> <li>➤ 1つの取組で身に付く力は1つでも2つでも良いが、全体を通すと5つの力が身に付き、行動につながっていくということが分かるものがよい。</li> <li>➤ ①3つの主体（家庭、学校、社会）、②5つの力、③行動、の3者の入った図で、どの主体が主にどんな取組を通じて5つの力を育んでいくのかを、表現したい。</li> </ul>	<p>意見を踏まえた概念図案を作成した。p.9</p>
<p><b>目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 行動する人を生み出すことが、この計画の上位の目的で、そのために5つの力が必要であるということ表現すべき</li> <li>➤ 環境のことをどれだけよく知っていても、行動しなければ環境は良くならないというのが環境教育の基本。行動する人が必要で、行動する人を作るために行動計画をつくるのはっきりさせるべき。</li> <li>➤ 「目指すべき姿」が「環境首都あいちを支える人づくり」というのはどうか。教育基本法でも「お国のために」とは書いていない。県のために尽くす人材の育成と捉えられる。</li> </ul>	<p>「行動する人づくり」が目的であり、学びを行動につなぐため、一人一人が身に付けることが望ましい「五つの力」を環境学習等を通じて育てていくことの記載を追加した。p.7, 9</p> <p>「環境首都あいちを支える」といった表現は削除した。p.7</p>
<p><b>連携・協働の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 福祉や防災、金融など他分野とのつながりも連携・協働。主体と世代間についての記載だけでは物足りない。県でも環境部の仕事だけが環境学習ではない。</li> <li>➤ 各自自治体の連携や、地域間の連携の底上げも必要。</li> </ul>	<p>行政の記述の中に、多様な視点から環境問題を捉えることが効果的であること、地域間や他分野とのつながりが環境問題を理解するきっかけとなることについて言及した。p.31</p>

主な意見	対応
<p><b>各主体に期待される取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 企業も社会もSDGsを目指して行動をしていくということを計画中に明記した方がよい。</li> <li>➤ これから10年以上使う計画であり、SDGsの17の目標とどのように関わるかを意識して書くべきではないか。</li> <li>➤ SDGs達成に向けた取組で、企業が社会や学校に貢献できるということが書いてあると、企業の役割に厚みが出る。</li> <li>➤ 企業の担当者も、SDGsの表現があった方が理解しやすい。</li> <li>➤ エコラベルの付いている物を買うことだけがグリーン購入という時代ではない。エシカル消費という表現を入れるべき。</li> </ul>	<p>各主体の取組の内容をSDGsと関連づけることで、社会への貢献をより明確に示すことができることを追記した。p.18, 25</p> <p>エシカル消費についての記述を追加した。p.26</p>
<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ どのような変化や成果があったのかという切り口があってもよい。</li> <li>➤ 新行動計画では質の向上を掲げているので、アンケートの選択肢は、学校清掃や美化運動などに取組んでいるかだけではなく、質が上がっているか見えるような問いが良い。</li> <li>➤ 各主体の努力が現れるような指標の設定が大切。</li> <li>➤ 指標は数値だけでなく、インタビューなど定性的な評価も考えられる。</li> <li>➤ 数値化できる行動よりも、生き方や価値観の変化など、数値化できないことが大事。意識の変化が問えるような調査に価値がある。</li> <li>➤ 主観的な評価ではなく、客観的な評価が重要な時代である。</li> </ul>	<p>代表的な取組がどれだけ進んだかを数値により定量的に評価するほか、各種アンケートなどにより定性的な評価を行い、行動計画に基づく環境学習等の取組の改善や見直しに役立てていくこととして、代表的な事業と指標例を選定した。p.36</p>

## 委員への意見照会(平成 29 年 11 月 29 日、12 月 11 日)

主な意見	対応
<p><b>対象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 対象は、「すべての県民」となっているが、在勤・在学者も含めて「県民等」としてはどうか。</li> </ul> <p><b>改定点について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 主な改定点の 3 点は、並列で良いか。「(1)」と、「(2) 学習機会の拡充」の 2 本柱で語った方が、第 2 章の「1 学びを行動につなぐ『五つの力』と「2 各主体に期待される取組と施策の展開」にスムーズにつながる。</li> <li>➤ 各取組・施策が、どの五つの力の育成にどうつながると考えているのかを記述する必要がある</li> <li>➤ 共通する工夫点(太字「心がけるとよい点」3つ)が、五つの力を育むことを念頭に置いて取り組むこととの関係が分かりにくい。「各主体に期待される取組と…」のリード文として活用してはどうか。</li> </ul>	<p>「県民」には、在住者のほか<sup>在勤・在学者も含んで整理している</sup>が分かる記述を追加した。 →巻末</p> <p>最も重要な「行動につなぐ力を育む」をまず挙げ、そのために必要な「機会の拡充と質の向上」を次に配置し、第 2 章と対応させた。 p.6</p> <p>また、特出ししていた旧第 3 章の内容も、第 2 章に統合した。p.34</p> <p>五つの力と各主体に期待される取組をつなぐリード文として記載した。p.14</p>
<p><b>指標について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「主な事業」の例示に環境学習の中核と考えられる「小学生」「中学生」を明記することが必要。</li> <li>➤ 対象は幼児や高校生、大学生に限らず、小中高生や大人も含めるべき。</li> <li>➤ 代表事例をあげて評価するのは無理がある。「評価の対象とする主な事業」の項目は削除し、アンケート調査のなかで「五つの力」のそれぞれに相当する質問項目の回答結果を分析していけばよいのではないか。講座実施数や参加者数は、「五つの力」に無理に紐づけせず、定点観測していけばよい</li> <li>➤ 数値目標は必要最小限とし、新たな取組の追加や従来の取組の見直しがされたことなどを評価してはどうか。</li> </ul>	<p>各主体が取組の参考とすることができるよう、主な事業や対象を例示したうえで、年代を限定しない表現に変更した。p.36</p> <p>取組の新設や見直しの意義を各主体と共有できるよう、評価結果等を発信する旨、追記した。p.36</p>

## 市町村及び県庁内各課室への意見照会

主な意見	対応
<p><b>全般について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 環境意識は若年層にこそ定着していることを現場では実感している。若年層(園児、児童生徒)から親世代、祖父母世代へのアプローチに主眼を置いた視点をもっと加えてほしい。</li> </ul> <p><b>現行計画の評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 評価結果に至った流れが分かりにくい。</li> </ul> <p><b>「五つの力」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「共働」は結局、「協働」のことではないか。</li> </ul> <p><b>事業者の取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 農林水産業と SDGs との関連が現時点では不明確であるため、「農林水産業においても、SDGs を活用することで、環境との関わりをより深く理解することができる」を削除し、「事業活動」に農林水産業も含める形で整理されたい。</li> <li>➤ 事業者の認定等の基準の一つとして、「社会、環境への配慮」を盛り込んでいる。</li> </ul> <p><b>行政の取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 環境学習の計画やしぐみなどの環境が整備されても、市町村には専従職員を置いて実践していくような余裕がないのが実情。県が、各市町村の特性に応じた個別具体的な助言・提言を積極的に行っていくという視点を追加してほしい。</li> </ul> <p><b>指標について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 県全体としての計画の進捗を把握する指標としては、対象が限定されすぎている。</li> </ul>	<p>ごみ分別の具体例を加えた。p.15</p> <p>具体的な説明を加えた。p.4</p> <p>一人一人に育む力の場合に「共働」を用いることを追記した。 →巻末</p> <p>当該箇所を削除した。</p> <p>「社会や環境への配慮の観点からの優遇措置等を通じた支援」を追記した。p.27</p> <p>「市町村のニーズや特性に応じた助言等の支援」を追記した。p.33</p> <p>各主体の取組にも評価結果や改善策を反映できるよう、広く発信して県全体のレベルアップを図る旨、追記した。p.36</p>